

# ヤナギ類13種における 挿し穂の発根性評価

富山県農林水産総合技術センター森林研究所

森林環境課 岡山侑子

# 背景と目的

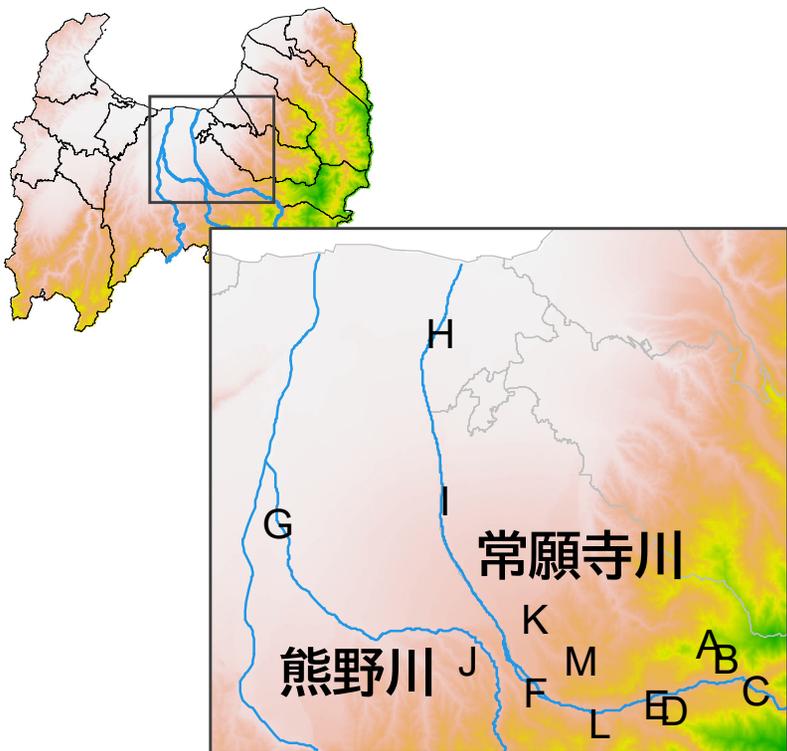
- 県内に自生するヤナギ類のうち、主要種は13種
- これらを治山事業地の緑化植物等として利用するには、**樹種ごとの挿し穂の発根性を把握する**必要がある

➡ 夏季・秋季に挿し穂を採取し、**発根率を調査**  
発根率と分布特性に基づく**樹種**の**選択方法を検討**

- オオバヤナギ
- オノエヤナギ
- カワヤナギ
- ヤマナラシ
- ジャヤナギ
- イヌコリヤナギ
- ドロノキ
- バッコヤナギ
- ネコヤナギ
- コゴメヤナギ
- マルバヤナギ
- オオキツネヤナギ
- タチヤナギ

直挿し増殖に適した樹種？

# 挿し穂の採取



樹種	集団	A B C D E F G H I J K L M													合計	
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M		
1	オオバ			8		2										10
2	ヤマナラシ	2			8											10
3	ドロノキ			5		5										10
4	コゴメ					5				5						10
																(個体)

↓

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10(番)

↓ ...

5(本)

- 各樹種につき2地点から母樹10個体を選定
- 5本/母樹(50本/樹種)を採取
- 2~3年生の枝から切り出し
- 長さ:20cm、元口直径:20mm未満、末口直径:8mm以上
- 夏季(7月下旬)と秋季(11月下旬~12月上旬)に実施



20cm

採取直後の挿し穂

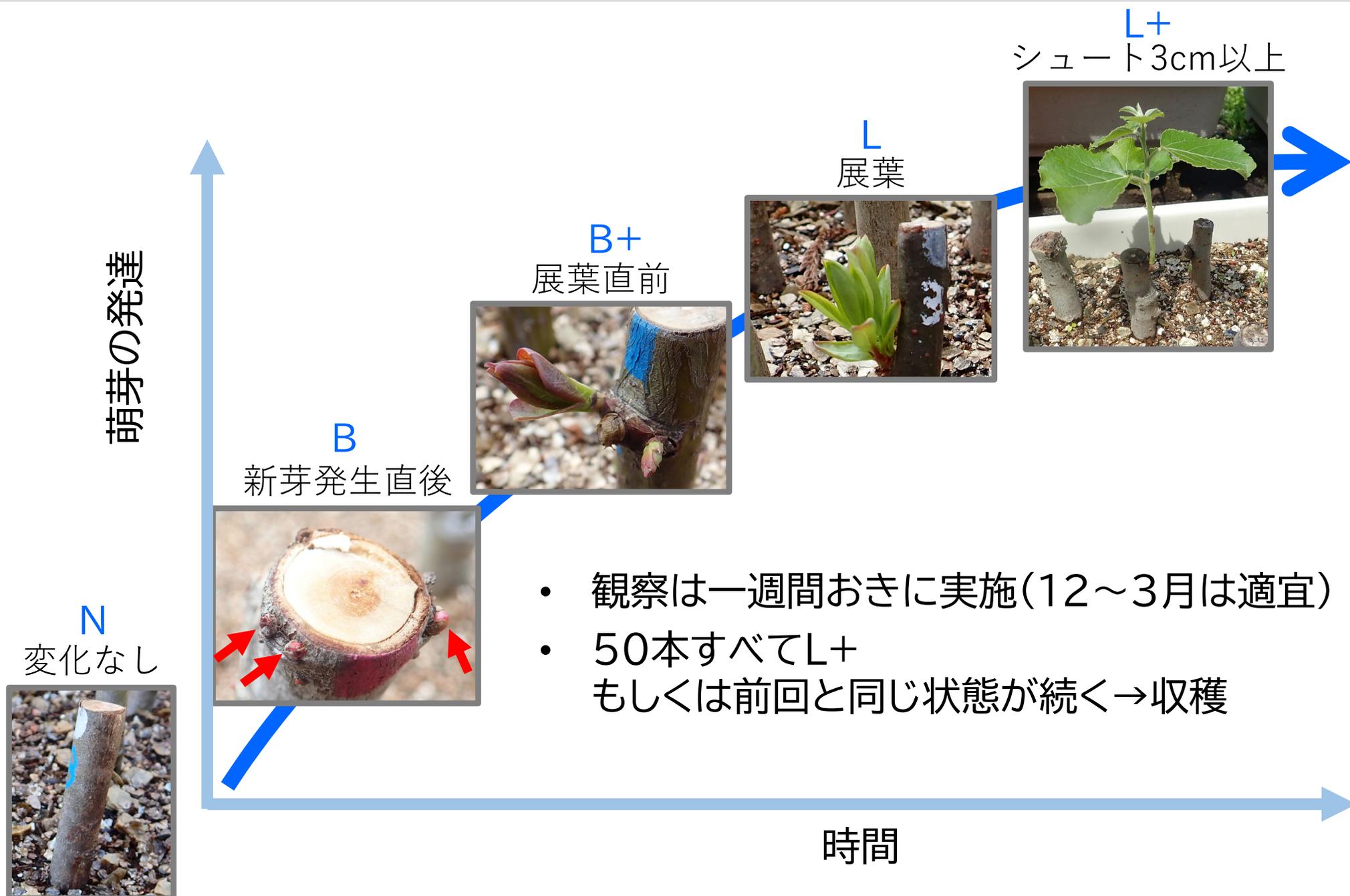
# 挿し穂の管理



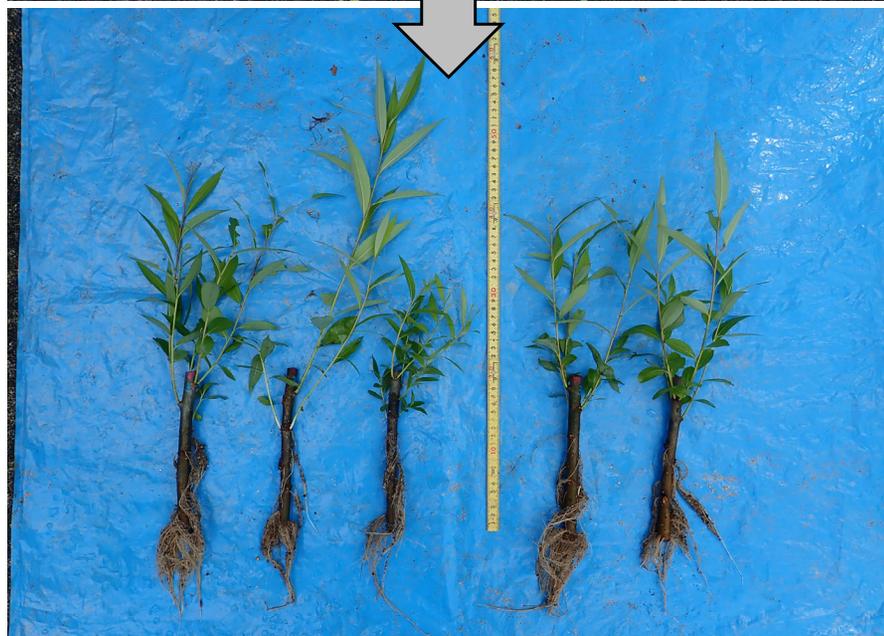
- 採取当日中に地上部5cmとなるように挿しつけ
- 日あたりの良い場所に設置(12～3月除く)
- 早朝と夕方に灌水(12～3月除く)



# 萌芽の観察～挿し穂の収穫



ジャ(夏季)



オオキツネ(夏季)



基準に達した種から収穫し、発根率を調査した

# 発根率調査結果

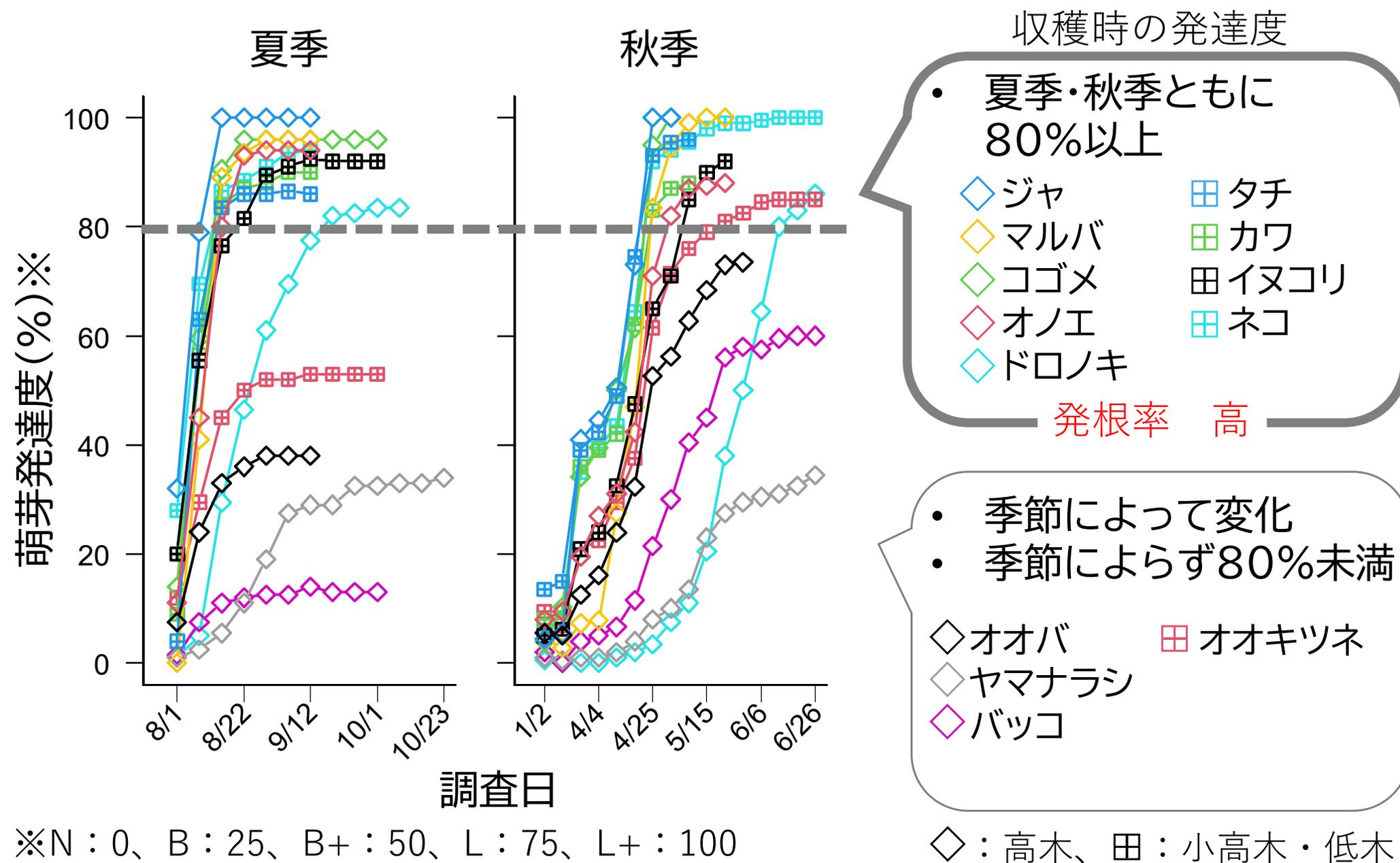
13樹種の発根率は3タイプに分類された

樹種名※	発根率(%)			
	夏季	秋季		
イヌコリ	100	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季、秋季ともに発根率90%以上</li> <li>・直挿し可能な期間が長い</li> </ul>	➡ 発根率 高
カワ	100	100		
タチ	100	100		
ネコ	100	100		
オノエ	100	100		
コゴメ	100	100		
ジャ	100	100		
マルバ	100	94		
ドロノキ	98	100		
オオキツネ	74	96	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節によって発根率異なる</li> <li>・直挿し可能(時期に注意)</li> </ul>	➡ 発根率 中
バッコ	16	66		
ヤマナラシ	16	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季、秋季ともに発根率20%未満</li> <li>・直挿し不適</li> </ul>	➡ 発根率 低
オオバ	6	18		

※青字：高木、赤字：低木・小高木

# 萌芽発達度

発根率高い樹種は萌芽も発達しやすい傾向



# まとめ① 直挿しに適した樹種

発根率 高

・ジャ  
・マルバ  
・コゴメ  
・オノエ  
・ドロノキ  
・タチ  
・カワ  
・イヌコリ  
・ネコ

発根率 中

・バッコ  
・オオキツネ

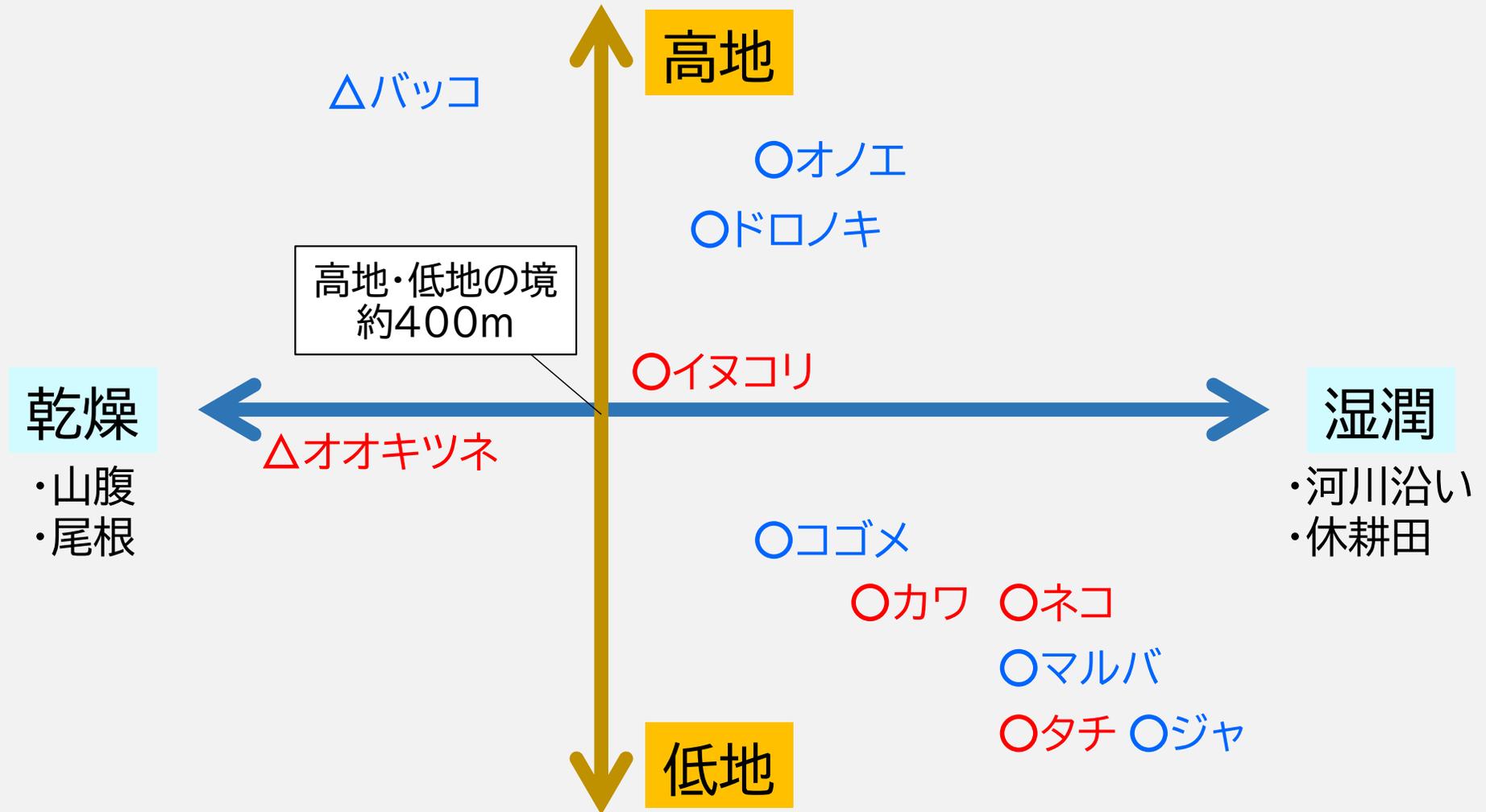
直挿し増殖の  
候補11種

発根率 低

・オオバ  
・ヤマナラシ

直挿し増殖困難

# まとめ② 発根率と分布特性に基づく樹種選択



- ① 発根率「高」(○)および「中」(△)※  
※発根率「中」の樹種については秋挿しを推奨
- ② 自然分布が事業地の立地環境に適合
- ③ 目的に合う生活型(高木:青字、小高木・低木:赤字)



効率的な増殖が期待される